

第一章 地図・絵図編



地図・絵図類は全部で787点あり、主に伊能図、下図、巻絵図、参考絵図などに分けられる。このうち伊能図は123点を数えるが、全国測量完了以前に作られた部分図がほとんどである。その大半は、第1次から第4次までの測量成果をまとめた、幕府に提出した際の控えもしくは試作品である。なかでも東日本の大図69枚すべてが現存している点の特筆される。下図は伊能図を作る前に調製される、測線と地名のみが記された無彩色の原図であり、399枚が現存する。下図は、実測図である伊能図の作図過程を段階的かつ具体的に伝える重要な研究材料でもあり、これ程にまともな例は少なく貴重である。

また、巻絵図は、測量隊自身が現地風景などをスケッチした風景画であり、四国や九州の分が多く残されている。参考絵図は、現地の藩や町村から受け取った絵図である。これもやはり、中国や九州の絵図が多く残されている。